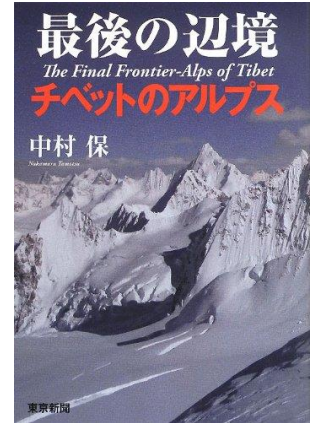
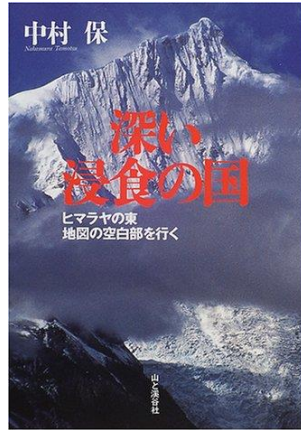
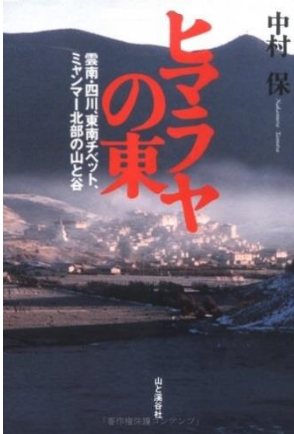


中村 保 著

『ヒマラヤの東』、『深い浸食の谷』、
『チベットのアルプス』、『最後の辺境』



かつて、著者の講演会を聞く機会があった。それによると、中国の雲南省、四川省、チベット自治区、それにミャンマーが接する辺りは、アジアを代表する大河の源流部と複雑な褶曲山脈が織りなす驚異の自然が存在し、6000m級の未踏峰が200座以上あるそうで、秘境に興味がある方には堪らない魅力ではなかろうか。東南チベットの「横断山脈」と言われる地域である。

実際には入境するのが困難な地域であるから、机上登山に終るかもしれないが、それはそれでまた楽しいであろう。これらの著書に挿入されたそれぞれの山の写真もヒマラヤ本体の山々に劣らず魅了的な山容である。

著者は、21年間にわたって32回もこの辺境を探索した。その成果である未知の山々の発見と少数民族の記録であり、地図の空白地帯であったこの地域のパイオニア的研究の成果でもある。また、初期の探検家や布教家の足跡も辿っていて、その頃の苦労話も紹介されている。

第6回秩父宮記念山岳賞受賞（2003年度）。

『最後の辺境 チベットのアルプス』は、前三著の総集編とでもいうべき著作である。

『ヒマラヤの東』1996年刊、『深い浸食の国』2000年刊、『チベットのアルプス』2005年刊

以上の3冊は山と溪谷社刊。

『最後の辺境』2012年東京新聞刊

[「山書の小溪」目次に戻る](#)